

矢作川流域圏懇談会通信

H28 山部会編 vol.5



発行日：平成 28 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 36 回山部会WGを開催しました！

10月7日(金)～8日(土)に第36回山部会WGが岡崎市にて開催されました。今回のWGでは、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドラインに関して、現在の進捗状況と今後の予定を話し合いました。

日時：平成 28 年 10 月 7 日 (金) ～ 8 日 (土)
場所：岡崎市農村環境改善センター研修室ほか
参加者：24 名 (事務局含む)



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

山部会では、2013 年度から 2015 年度にかけて、持続可能な流域圏につながる活動をしている団体を対象に取材して、「山村再生担い手づくり事例集」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを発行しました。今後は、3 カ年で取材した 64 団体を対象に“山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクト”を展開することになりました。

【2016～2018 年度の目標】

取材を行った 64 団体は、その後さまざまな形で進化しています。その進化について記録し、共有することで、取材者・取材先・流域圏懇談会・読者のネットワークの拡大と深化を目指します。

【2016 年度の活動】

2013 年度に訪問した 21 団体を再訪し、取材を行い、レポートにまとめます。11 月を目処に取材を行い、来年 1 月までにレポートをまとめ、2 月～3 月に山村再生担い手づくり事例集の交流会を予定しています。

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

以下の 3 つの企画について、紹介と意見交換を行いました。

- ① 2017 年の「矢作川感謝祭 (仮称)」における実行委員会への参加 (11 月より始動予定)
→流域の林業家、素人山主、森林ボランティアと一緒に“森の恵み”に感謝し、山仕事を誇れるお祭りを目指します。
- ② 「矢作川流域林業担い手ヒヤリング (仮称)」の実施 (12 月より始動予定)
→“中堅離脱”の深刻化、巨大製材所、大森林組合、零細自治体、自伐林家、素人山主の共存を主なテーマとします。
- ③ 「あいちモリコロ基金」への応募
→“山の恵み”という言葉を復権させるため、額田の森林を取り巻く活動をモデル地区として申請する予定です。

3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

以下の 5 つの項目について、森づくりガイドラインに関する情報共有と意見交換を行いました。

- ①矢作川流域圏における近年の間伐面積の実績
→2010 年をピークに岡崎市と豊田市で減少傾向が続いており、岐阜県域と長野県域でも近年大きく減少しています。
- ②森づくりガイドラインのアウトライン
→中核製材工場の稼働、行政レベル (豊田市・岡崎市) の森づくりや水循環の構想、皆伐一斉造林や間伐 (伐り置き間伐、搬出間伐) の考え方、人工林・針広混交林・二次林の配分などについて示すことにしたいと思えます。
- ③近自然森林管理において推奨される水道水源の質と量に関する指標と森林管理
→ヨーロッパでは、水道水源林の森林施業に対し、詳細な配慮事項を明記しています。このような考え方は日本には少なく、流域圏にも応用できる部分がありそうです。
- ④豊田市における 100 年の森づくり構想の見直し
→森林の立地条件による伐採規制、再造林に関するルール設定など、全国各地の事例収集を行っている状況です。
- ⑤岡崎市水循環推進協議会 緑のダム部会の進捗状況報告
→岡崎市では、水源涵養という面から適切な森林の管理手法を考えています。水循環推進協議会という付属機関のもと、“緑のダム部会”という諮問機関を設置し、今年度末に答申を受けることになっています。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- ・ 宿泊を交えた年度末の交流会を根羽で行いたいと考えている。根羽村森林組合の今村さんに候補日を絞っていただき、皆さんと日程調整を行いたい。(洲崎)
- ・ 山村再生担い手づくり事例集の取材先も、案内が欲しいという方がいたら、登録していただきたい。(洲崎)
 - ▶ メールアドレスをいただければ、登録する。(事務局)
- ・ 9月に乙川河川敷で、上下流の人・ものの交流を目的とした「おとがワ！ンダーランド 2016」が開催された。矢作川本川も支川に負けないようにイベントを行いたい。(洲崎)
 - ▶ 岡崎製材さんに岡崎森林組合の間伐材を提供した。近年、地域材を使用する考えが芽生えている。(荻野)

●矢作川流域山村ミーティングについて

- ・ 岡崎森林組合でも、志が高いのは転職・1ターン者である。今回のヒヤリングでは、我々のような関係者が聞けない踏み込んだ意見交換を期待している。もちろん参画もしたい。(眞木)
- ・ 私がこの世界に入った頃は、環境や水源を意識する価値観はなかった。今では、それらを普通に考える志の高い若者が増えた。一方で、町の活性化については関心がなく、ヒヤリングの際には嫌がられる可能性がある。(荻野)
- ・ 今の林業は、新たな3K(カッコいい・クリエイティブ、希望がある)を目指すことが大切である(眞木)
- ・ 額田木の駅は、量的にも質的にも日本をリードしている。そこで次回の「木の駅サミット」を額田で行いたいと考えている。(丹羽)
- ・ 中堅の離脱という問題には、子育てが関係していると感じる。林業にも上司や部下の関係など、一般企業と同様の問題を抱えている。上司は「無駄だ」、「そんなの仕事ではない」という発言は避けるべきである。(山本薫久)
- ・ 岡崎市では、間伐材6,000円/tが相場であるが、他の地域ではどうか。(山本恵一)
 - ▶ 全国的には、6,000円/tあるいは6,000~6,500円/m³など、そのラインを目標としている。(丹羽)
- ・ 木質バイオマスの発電所やチップ業者に直接売ったほうが高い場合があるが、不思議と地域通貨の枠の中で収まっている。お金だけで動かない人々が多いことに驚いた。(丹羽)
- ・ 不安に感じるのは、10%しか上流の木材を使用していなくても地元産として売れる業界の常識である。(蔵治)
 - ▶ 認証制度を行政と地元企業が一体となって構築する必要がある。(岡根)
 - ▶ トレーサビリティの確保ということか。この部分が岡崎市には不足していると考えられる。この懇談会では、長野県根羽村の最新事例が聞けるので、一層の情報共有や意見交換が期待される。(蔵治)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

◀岡崎市水循環協議会 緑のダム部会の進捗状況報告▶

- ・ 岡崎市の上水道の供給確保という課題について、具体的な数値目標は設定されているのか。(浅田)
 - ▶ 現状では明確な数値が得られないため、具体的な数値目標は示していない。(蜂須賀)
 - ▶ 現状の消費量はわかると思うので、達成意欲を高めるために、数値目標を掲げるべきだ。(浅田)
- ・ 里山の保全では、なぜ青木川水系である岩屋観音あたりが選定されたのか。(沖)
 - ▶ 地元からの要望である。行政からの指定はできないので、あくまで地元の意向に従った。(蜂須賀)
 - ▶ 岡崎市の水循環は乙川を対象としており、本来は乙川水系を選定すべきだ。(沖)
- ・ 合併前の額田町の時代は、水道使用量1tにつき1円を森林整備にあてられていた。しかし、合併と同時に打ち切られてしまった。額田林業クラブとして常に制度の復活をお願いしてきたが、なぜ進まないのか。(山本恵一)
 - ▶ 山の必要性について、街の人々が理解できていないのが現状だ。その中で、制度を再会しても特定の業種について補助をすることに理解が得られない。緑のダム部会の答申をうけて、新たな一歩を踏み出す予定だ。(柴田)
- ・ 現状では針広混交林にする技術は確立されていない。これは一つの仮説であるが、小面積の皆伐で針広混交林への転換ができれば、補助金がなくても木材生産が可能になるかも知れない。(蔵治)

◆岡崎市におけるフィールドワーク

木づかい推進の一環として、岡崎市内のウッドデザインパーク(ニッカホーム株式会社)と間伐材利用コンクール作品展示会(岡崎市林務課)を視察しました。

ウッドデザインパークでは、岡崎産材を利用したツリーハウスやウッドタイルの活用事例を学びました。また、間伐材利用コンクールでは、大人も驚く中学生のアイデアや木工体験コーナーで楽しむ親子を見ながら、木育の大切さを学びました。



今後のスケジュール(予定)

次の山部会WGは、11月25日(金)根羽村にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

